

令和6年度

# 市民福祉常任委員会

## 行政視察報告書

【視察期間】 令和6年7月 29 日～31日

【視察先及び視察テーマ】

・岩見沢市

『岩見沢市不良空家除却補助金について』

・南幌町

『空き家対策助成事業について』

・余市町

『ニコニコたまご教室（両親学級）について』

【参加委員】

委員長 高橋 伸典

副委員長 今村 芳彦

委員 谷 聡

市民福祉常任委員会の行政視察報告を申し上げます。

7月29日・30日の2日間で、岩見沢市、南幌町、余市町に行き、子ども子育て支援策と空き家対策を中心に視察を行いました。

## 【 岩見沢市 】 「岩見沢市不良空家除却補助金について」

岩見沢市は「特徴的な空き家対策について」視察をしました。岩見沢市は石狩平野に位置し、札幌市のベッドタウンとして発展して、平成22年に人口9万人を超えました。高齢化社会や大型ショッピングセンターが郊外で発展して中心市街地の空洞化や年間1000人程度の人口減少が進み、全市的な空き家対策が課題となりはじめました。

平成30年に「岩見沢市空き家等対策計画」を策定し、「特定空き家等の除却（解体）」の支援を表記しました。目的としては、市民の安全と生活環境保全のため、倒壊や建築資材散乱の恐れや防犯・火災等を未然に防ぐことであり、不良空き家の除却工事にかかる費用の一部を助成する「岩見沢市不良空家除却補助金」事業がスタートしました。補助率50%、50万円を上限とし、年間10件程度の除却工事を行うという内容の補助事業でした。補助対象とする不良空き家等に①建物の不良度測定による評点合計が100点以上であること②1年以上の居住や使用がなく、不良空き家及び車庫や門扉などをすべて除却する③所有者または相続人全ての同意が必要などの制限がありました。補助金交付件数は、令和元年6件、令和2年9件、令和3年8件、令和4年9件、令和5年3件と全35件の解体が行われました。

岩見沢市では、空き家増加の問題を早期に対応するなど、実質的な対策を盛り込み効



果を上げております。名寄市と同じ豪雪地帯で中心市街地の空洞化と郊外地区に大型ショッピングモールが発展したことの類似点があり、国の交付金を利用し不良空き家を除却し、市民生活の安心安全を守る必要があります。

国の「空き家再生等推進事業」を活用し、除却工事を推進

## 【 南幌町 】 「空き家対策助成事業について」

南幌町では、大規模な団地造成に伴い、札幌市や千歳市のベッドタウンで子育て世代の移住促進に向けた施策を推進したことで、急激な高齢化が課題となっており、人口が急増した１９９０年代に建てられた住宅が多いため、今後は空き家が増えてくると予想され、管理不全空き家にならないように住宅環境を保持する必要があります。



町単費とふるさと納税で、空き家等解体事業を推進

空き家等解体助成事業と

中古住宅助成事業を追加した理由としては、管理不全の状態の空き家の増加を抑制することと、中古住宅や空き家の認識を深める目的のために追加し、リフォーム工事業や子育て支援策には、基本的に町単費でふるさと納税を財源に充てています。

空き家等解体助成事業は、解体費用の１０％。限度額は１件１５万円で、助成件数は３



子育て移住定住事業で、８０坪の宅地が  
購入費１０万円

件。中古住宅購入費助成事業は、購入費の２０％。限度額は１件２５万円で、助成件数は７件。住宅リフォーム助成事業は、費用の２０％。限度額は１件３０万で、助成件数は２８１件でした。名寄市においては市単費やふるさと納税を使用できませんが、管理不全空き家や空き家を出さない施策と国の交付金を活用し、空き家の解体やリフォーム助成を進めるべきと感じました。

## 【余市町】

## 「ニコニコたまご教室（両親学級）について」

余市町では「ニコニコたまご教室」について視察をしました。

平成16年度から事業を開始。妊婦とその家族が安心して出産、子育てにのぞめることを目的とし、講義



万全な子育て支援とサポート環境が充実した体制の余市町

や体験教室などを通して、妊娠、出産、子育てについてイメージ化を図り、氾濫する情報を整理する機会や参加者同士の交流の場としていました。対象者は、妊娠38週までの妊婦とその家族で5月、9月、1月に開催。平成30年度受講者数は16人と家族10人。平成31年度受講者数は18人と家族13人。令和2年度受講者数は13人と家族1人。令和3年度受講者数は8人と家族8人。令和4年度受講者数は8人と家族5人。令和5年度受講者数は8人と家族7人で、参加者からは「不安が和らいだ」「赤ちゃんが泣いたときの対応が不安だったが、赤ちゃんの泣く理由と対処方法が分かってよかった」等々の感想がありました。

その他にも子育て支援に優しい、離乳食教室の「すくすく教室」や育児の孤立を防ぐ「ようこそ赤ちゃん教室」、また祖父母が孫の面倒をみる「まごナビ事業」や、道内でどこも実施していない胎児の状態を検査する検査費用の助成の実施を行うなど、周産期・出産・幼少期までの子育て支援のサポート環境の充実と万全な体制を感じました。少子高齢化・人口減少対策が進む中、プレパパ・プレママが安心して名寄市で生み育てられる支援体制に期待するところであります。

最後に、今回の視察を通して、名寄市が直面している人口減少や少子高齢化社会、とりわけ子育て世代の減少は今後大きな問題となるであろうと強く危機感と懸念を抱いております。また、人口減少や高齢化社会の影響により空き家問題は喫緊の課題であり、市民

の安全で安心できる生活環境の確保が重要であります。

対策としては、子ども子育て世代への直接的な支援のほか、居住環境の維持・向上を図るためにも、市街地の空き家等解体助成事業の活用など解決すべき課題であると、あらたに認識したところであります。

将来にわたり安心して住み続けられる「まちづくり」を目指し、さらなる市民福祉の向上にむけて委員会が一丸となり取り組む所存です。

以上、市民福祉常任委員会の視察報告といたします。